

# 死とは、何か？

医学上の死及び用語

- ①従来の死・心臓死：呼吸停止→心臓停止→血流停止→全ての臓器が停止→死亡。  
(従来の死の判定：心臓の停止・呼吸の停止・瞳孔の拡大の3点。)
- ②脳死：人の脳幹を含めた脳の全ての機能が回復不可能な段階にまで至った状態。1970年代になり、人口呼吸器が普及してから脳死が始まる。脳の機能が廃絶しても、人口呼吸器で肺を動かす→心臓が動く→全身に酸素が供給される→臓器は生きる→脳死。2010年7月より改正臓器移植法が施行され、本人の臓器提供の意思が不明な場合にも、家族の承諾があれば臓器提供が可能になった。(15歳未満の者から、脳死下での臓器提供も可)。  
(植物状態：大部分の脳機能は働かず、自発呼吸・脳波等、生命維持に必要な脳幹部分は働く。)
- ③尊厳死：人間が人間としての尊厳を保って死に臨む。
- ④安楽死：末期がん等で、「不治」且つ、「末期」で、耐え難い苦痛を伴う疾患の患者の求めに応じて、医師らが積極的又は消極的手段によって死に至らしめる事。  
◆積極的安楽死：死期が切迫していること、耐え難い肉体的苦痛が存在すること、苦痛の除去・緩和が目的であること、医師が行うこと等、6つの要件を満たさないと違法行為となる。  
◆消極的安楽死：必要以上の延命治療を控えて、死を迎えさせる。
- ⑤延命治療：回復の見込みのない患者に対して、人口呼吸器等を用いて延命を目的に行う治療。
- ⑥終末期医療 (TERMINAL CARE・ターミナルケア)：末期がんの患者や、治癒の見込みがない人々が、QOL(生活の質)と尊厳を保ちつつ、最期の時を過ごすための医療。
- ⑦QOL (QUALITY OF LIFE・クオリティ・オブ・ライフ)：一般の人の生活の質、つまりある人がどれだけ人間らしい、望み通りの生活を送る事が出来ているかを判断するための指標。
- ⑧ホスピス (HOSPICE)：終末期医療 (ターミナルケア) を行う施設又は、在宅ケアの事。

哲学上の死

- ①靈魂不滅：ソクラテス、プラトン、アリストテレス、デカルト、パスカル、キルケゴール…等は、靈魂 (魂) の不滅を心に留めつつ、各人の哲学を構築した。
- ②ニーチェ：神が死に人は死への自由を得た。神の死→頼れるものの喪失→ニヒリズム→幸・不幸の人生を受容 (運命愛) →もう一度人生を！ (永遠回帰) →全自己の肯定 (超人) →自由。
- ③ハイデガー：人は「死への存在」であり、人は必ず死ぬ。自分の死を今に引き寄せて生きれば、人は「本来的自己」になれる。人は死の不安に直面しないように、死を忘れようとする。
- ④サルトル：死は偶然的事実で、死者となったという事は、生きている人達の所有物になること。人は死んだ瞬間から、その人の歩んだ全人生は、残った人達の思考の世界に納められる。

宗教上の死

- ①キリスト教：魂は、最後の審判まで墓で眠る。或いは、魂は、神のもとに帰る。
- ②イスラム教：死とは、死の天使が死体から魂を抜き取る事。魂は、最後の審判まで墓で眠る。
- ③原始仏教：釈迦の考え→人は必ず死ぬ。不滅なもの (アトマン=靈魂の類い) は存在しない。
- ④大乘仏教：禅宗 (臨済宗・曹洞宗) →今生きている現在で、生死一如の悟り。来世は認めない。  
真言宗→今生きている現在で、即身成仏 (この身このままで仏になる) を達成する。  
日蓮宗→現在のまま、即身成仏を達成する。魂は、生きている人との共存との考えも有。  
浄土宗・浄土真宗→人は死ぬと、阿弥陀仏の住む極楽浄土に生まれ変わる (成仏)。
- ⑤成仏とは→原始仏教では、悟りを開いて仏陀となる事。日本人の成仏：浄土等に生まれ変わる事。